

問一

長編作品の要約が単なる断片の集合であるのとは異なり、短編は、作者の捉えた具体的なイメージを過不足ない分量で緊密に表現した文章の調子を持つものだから。

（解答欄 3 行）

問二

短編は、具体的なイメージを鮮やかかつ簡潔な表現で読者に素早く印象づけようとするが、長編は、抽象的な思考に基づく展開を読者にじっくり理解させようとする。

（解答欄 3 行）

問三

あるがままの現実をすぐさま表現する「写生」とは異なり、実在であれ心象であれ作者が捉えたイメージが、いったん記憶されて蘇り鮮やかな広がりをもつ文章になるには、それが醸成するまでの十分な時間が必要だから。

（解答欄 4 行）

問四

『めんどり』は、登場人物の会話によって各人物像や人間関係が明示されており、小品を集めた『にんじん』を読む際の導入にふさわしいだけでなく、会話による描写を得意とするルナールのスタイルをも印象づけるから。

（解答欄 4 行）

問一

世界各国の関係の緊密化により遠隔地での出来事が人々の生活に影響を及ぼし、社会が複雑性と変化を増す現代においては、個人が主体的に環境に適応して生きていくために報道を介した情報の把握が不可欠であるから。  
（解答欄 4 行）

問二

報道機関が本来の機能を失ったとき、人々が底知れない不安に襲われるのは、その事態が、個人の力では対処しえない、外在的で抗いがたい力に起因するということ。  
（解答欄 3 行）

問三

世界の動向と結びつき複雑化した社会の環境に適応して生きていくために、自ら思考して外界を理解しようとせず、報道される情報に依存してきた現代人は、報道機関が機能不全に陥ったとき、状況を正しく把握する手立てを失い、根拠のない流言に左右されやすくなるから。  
（解答欄 5 行）

問一

男は風流を解さない田舎者であるのに対して、女は風流ごとにばかり長けていて家事などは下手なので気に食わないことだと思ったから。

（解答欄 3 行）

問二

男は女と別れる理由として言い出せる言葉がなくて、どんな欠点を探し出そうかと、機会を待っていたところ、

（解答欄 2 行）

問三

今まで夫に飽きられていることに気付いていながらも、素知らぬふうにして過ごしてきたが、今夫から言われた言葉で、出て行けと思われていることがはっきりわかり、今までの自分の態度を恥ずかしく思う気持ち。

（解答欄 4 行）